

日本伝熱学会関西支部 第22期 第3回講演討論会
(日本伝熱学会 熱流体応用技術研究会との合同企画)

日時：2015年12月22日(火) 13:30 - 16:50

会場：大阪市立大学 梅田サテライト ホール

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600 (大阪駅前第2ビル6階)

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access#umeda>

13:30 - 14:15 大村 高弘 氏 (和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科)

題目：最新の断熱材とその熱伝導率測定に関する現状と動向

概要：近年、省エネ対策は世界的規模に及んでおり、中でも高性能断熱材の開発とその実用化は急務となっている。そこで、現在の最先端の断熱材、特に真空断熱材とナノ粒子を使った断熱材を中心に、その熱伝導率と測定技術について紹介する。

14:15 - 15:00 須賀 一彦 氏 (大阪府立大学 工学研究科)

題目：多孔質界面および内部における乱流輸送機構の理解とモデリングに関する研究

概要：多孔質に関わる流動は、様々な装置において散見されるが、多孔質構造の多様性ゆえに周辺流動について体系的に理解できていることは多くはない。そこで、実験と数値解析から乱流輸送機構の理解を進め、得られた知見から乱流モデルを組み立てる研究について講演する。

15:00 - 15:20 休憩

15:20 - 16:05 野口 佳樹 氏 (龍谷大学 理工学部)

題目：燃焼診断ツールとしてのイオンプローブ

概要：近年では、燃焼診断ツールとして、LIFなどのレーザ技術が発展してきているが、未だ高価である。本講演では、安価な燃焼診断ツールとして、イオンプローブを工業炉や燃焼器に適用することをめざして、そのしくみや研究事例を解説する。

16:05 - 16:50 堀内 豪 氏 (川崎重工業株式会社 技術研究所)

題目：川崎重工におけるガスタービンの高性能冷却技術に関する研究開発

概要：ガスタービンのタービン翼は金属材料の耐酸化限界温度を遥かに超える高温ガスに晒されるため、空冷式の高度な冷却技術が適用されている。当社ではより少ない空気量で効率的に冷却する技術の研究開発に取り組んでおり、今回はこの中からいくつかの研究内容を紹介する。

17:30頃～ 意見交換会

会場： 若の台所 北新地店

会費： 4000円程度を予定

講演会・意見交換会のご出席を京都大学 伊藤大介 (itod@rri.kyoto-u.ac.jp)宛てに『12月11日(金)』迄にお知らせください。

大阪市立大学 梅田サテライトアクセス

JR 東西線「北新地駅」下車、徒歩約 3 分

JR 大阪環状線、東海道線「大阪駅」下車、徒歩約 10 分

地下鉄四つ橋線「西梅田駅」下車、徒歩約 5 分

地下鉄谷町線「東梅田駅」下車、徒歩約 10 分

地下鉄御堂筋線「梅田駅」下車、徒歩約 10 分

阪神電鉄「梅田駅」下車、徒歩約 10 分

阪急電鉄「梅田駅」下車、徒歩約 15 分



大阪駅前第2ビル6階